



**KAKUNOSHIN OHTA**  
RACE REPORT

**2023 SUPER GT Rd.3**  
2023.06.10-11 SUZUKA CIRCUIT

## はじめに

前戦の富士大会からちょうど一ヶ月のインターバルを経てSUPER GT 鈴鹿大会を迎えるました。富士大会では予選、決勝共に悔しい結果になりましたが、鈴鹿でのメーカー試験ではトップタイムを記録できていましたし、64号車は過去に鈴鹿でポールポジションも獲得しているので、少なからず期待を持って現地に向かいました。

## 公式練習

これまでのレースと同じく、走り出しは伊沢選手が担当し周回を重ねていきました。テストやシミュレータで確認したセットアップやタイヤのフィーリングを確かめながらセットアップを進め、セッション後半で私に交代しました。鈴鹿では2度テストを行っていたため、ドライビングに関してはすぐにアジャストできましたが、鈴鹿で300クラスと混走するのは初めてだったので、ロスの少ないオーバーテイクを学ぶ重要な時間になりました。公式練習の結果から、予選はギリギリの戦いが予想されたので、インターバルでは予選のアタックに向けたセットアップをチームと細かく詰めていきました。

## 予選(伊沢選手担当)

予選Q1は伊沢選手が担当し突破を狙いました。全車の中で最も早いタイミングでアタックを開始し、公式練習よりも1秒以上タイムをマークすることができました。この点、インターバルで施したセットアップが良い方向に進んだと考えられまし、伊沢選手も良いラップだと言っていたので、Q1突破を期待しました。しかしながら、わずかにタイムが足りずにQ2に進出することはできませんでした。64号車は過去に鈴鹿でポールポジションをとった経験もあり期待が大きかった分、残念ですが450kmの決勝レースでは十分に順位を上げるチャンスがあるためにレースに向けて気持ちを切り替えてミーティングを重ねました。

## 決勝

決勝では初めてスタートドライバーを務めることとなりました。タイヤのウォームアップはよく、始めの数周で前の車に何度も仕掛けることができましたが、次第にペースが落ち始め苦しい展開になりました。また、想定よりも早いピットストップを行い、これから挽回という時にアウトランの他車に接触されスピンを喫したことは非常に残念です。その後も路面温度の大幅な変化などに翻弄される形でペースは上がらず、最終的に14番手でレースを終了しました。課題であるレースペースに今大会も苦しみ、しっかりと戦うことができなかつたことが悔しいです。

## おわりに

今大会はこれまでの2大会よりも大きな自信を持って迎えましたが、結果的には予選、決勝ともに非常に悔しい結果になってしまいました。この結果を受け止め、次戦までのテストで他車に追いつくための準備をチームと行なっていきたいと思っています。開幕からここまで苦しいレースが続いているますが、決して諦めずに戦いたいと思います。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

**HONDA****Nakajima**  
*Racing*

